

「NPO 法人 空とぶ森」の登山道の整備活動と環境学習講座に参加しました

アジア航測（株）は、環境技術を社会の環境教育・環境保全活動に役立てる目的で、地域社会貢献に取り組む NPO 法人の活動に協力しています。また、自然と共生する産業としての林業や農山村地域の喪失防止および再生の実現を目指して、森林・環境保全活動に取り組んでいる『特定非営利活動法人（NPO 法人）空とぶ森』の活動には毎年積極的に参加しています。

今年も、2024 年 5 月 25 日(土)に群馬県みなかみ町大峰山地区で開催された登山道整備と環境学習講座に参加しました。当日は好天に恵まれ、大人 17 名、子供 3 名の計 20 名で作業を開始しました。

今回の活動では、登山道の一部を塞いでいた倒木の除去や落ちている枯れ枝の除去を主な活動とした他、2022 年の活動で樹木に設置した名板の撤去を行いました。

また、昨年も「フィールドサインを見つけよう！」というテーマで登山道周辺に生息する生き物の痕跡を見つける環境学習講座を実施しましたが、今回は 1 ヶ月以上前から登山道沿いに 5 台のセンサーカメラを設置し、野生動物の活動を撮影しました。



写真1 NPO 空とぶ森の理事長から挨拶

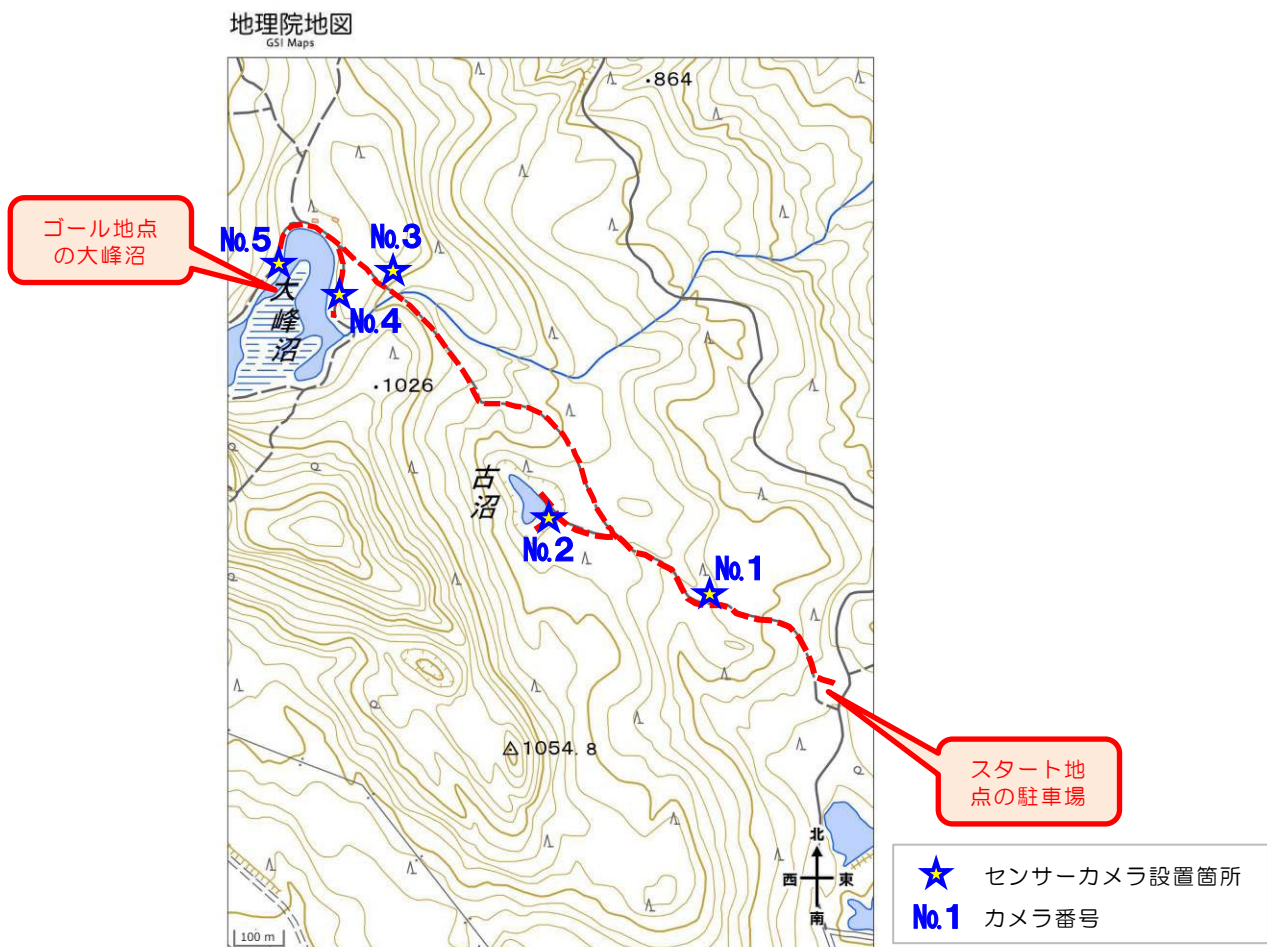


図1 活動実施場所位置図

◆倒木等の除去作業

大峰登山口を出発すると、登山道の端に一部がかかる倒木がありました。数人の大人たちが登山道の脇に撤去すると、その先にもいくつかの倒木が見られ、子どもたちも率先して除去を手伝ってくれました。



写真3 大勢で登山道脇に撤去

また、枯れ枝が散乱していたため、気になる枯れ枝を登山道脇に除去しながら古沼分岐点まで移動しました。

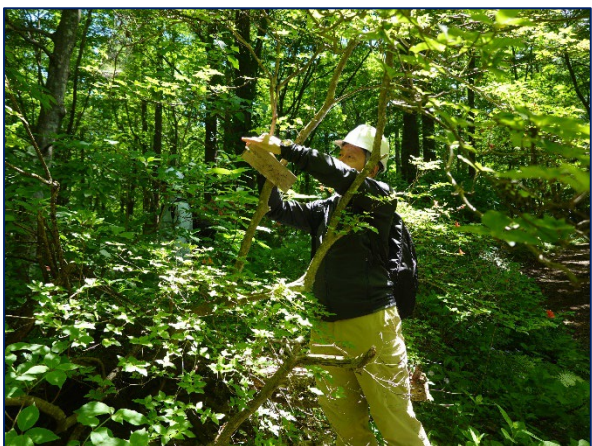


写真5 名板の回収



写真6 落ち葉に埋もれていたものを発見



写真2 腰を痛めないよう慎重に



写真4 子どもたちもお手伝い

◆樹木名板の回収作業

2022 年の活動で子どもたちが設置した樹木の名板については、同活動で作成した植生図によりその位置を確認し、回収しながら登山道を歩きました。結びつけていた麻紐が切れていたり、外れて落ち葉に埋もれていたりしたものもありましたが、概ね回収することができました。



写真7 回収した名板

◆ワンポイント講座「フィールドサインを見つけよう！」

注意深く観察すると登山道の周辺には足跡や爪痕、また、糞や食痕など様々な生き物の痕跡「フィールドサイン」が残されていました。

昨年の活動に引き続き、今回の活動でもアジア航測（株）社会基盤システム開発センター マリンイノベーション推進室の高柳さんと後藤さんにワンポイント講座をお願いしました。

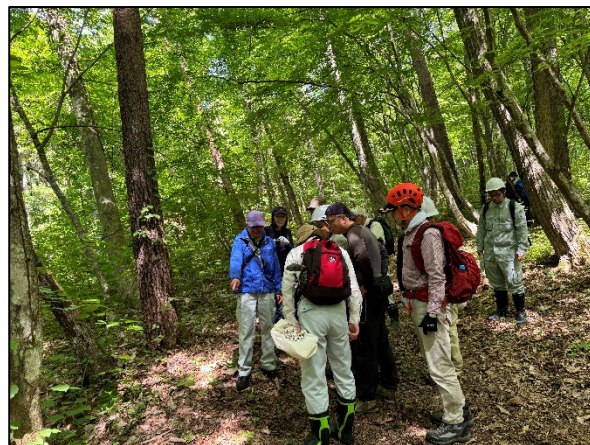


写真8 ワンポイント講座の様子

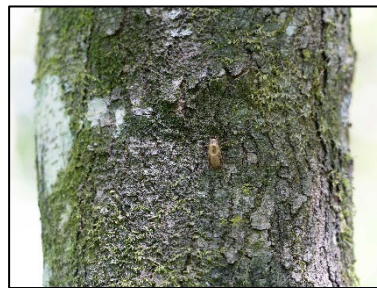
ワンポイント講座で取り上げたフィールドサインの例！



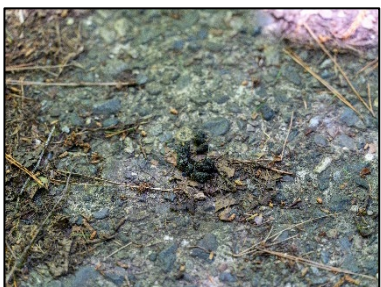
イノシシ？が掘った窪み



今回も発見リスの食痕(エビフライ)



ハルセミの抜け殻



テン？の糞



クマの爪痕



シカの角痕



写真9 大槻理事とホオノキの花

また、貴重な植物についてもお話しいただき、希少な植物であるギンラン、60年に1度だけ咲くと言われるササの花、NPO 空とぶ森の大槻理事が見つけたホオノキの花は地上に落ちていることが非常に珍しいとのことでした。



ギンラン



ササの花



カタクリ(4月)

◆センサーカメラで生き物の活動を見る

昨年は4台のセンサーカメラを活動日前日の夕方に設置し、夜間の生き物の撮影に挑戦しました。その結果、ヒナコウモリの撮影に成功しましたが、ワンポイント講座を担当いただいた後藤さんとしても思ったような成果が得られませんでした。

そこで、今回は NPO 空とぶ森の事務局が現場下見を行った4月18日に、後藤さんにも同行いただき、5台のセンサーカメラを設置しました。1ヶ月以上の撮影期間



写真 10 4月のカメラ設置作業



写真 11 モニターに映し出されたニホンジカ

を設けたため、今回は様々な野生動物の姿が撮影できているはずだと期待しながら、活動日の前日（5月24日）にカメラを回収しました。回収したデータは、「泊まれる学校さる小」でその晩に開催された懇親会の会場において参加者全員で確認しました。会場のモニターには、カケス・オオアカガラなどの鳥類とアナグマ・キツネ・タヌキ・テン・ノウサギ・ハクビシン・イタチ・ニホンジカなどのほ乳類の姿が映し出されました。特に、ニホンジカの動画には歓声が沸き上がりました。

センサーカメラが捉えた動物たち！

《カメラNo.1》



アナグマ



キツネ



タヌキ



テン



ノウサギ



ハクビシン

《カメラNo.2》



アナグマ



イタチ

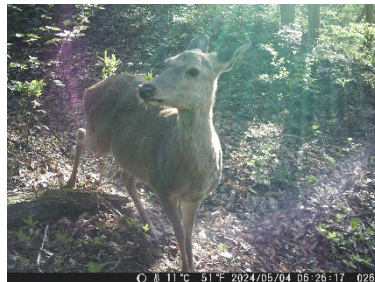


テン

《カメラNo.3》



アナグマ

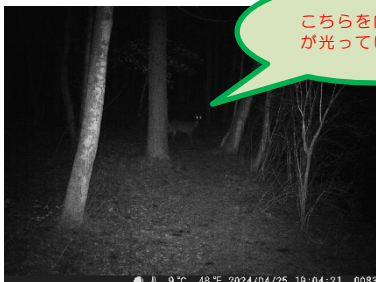


ニホンジカ

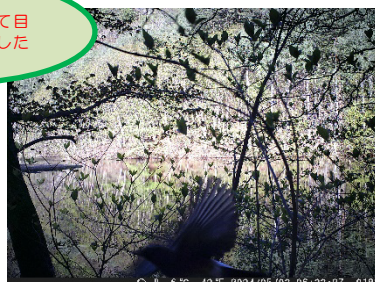


ハクビシン

《カメラNo.4》

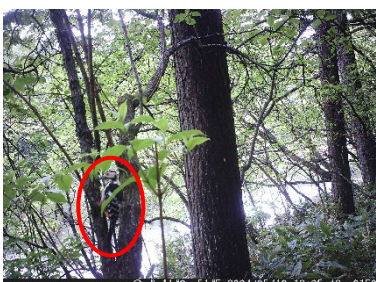


ニホンジカ



カケス

《カメラNo.5》



オオアカゲラ



カケス

カメラNo.4は設置から2週間後に、カメラNo.5は設置から3週間後に撮影方向を変えられていました。人為的と考えられますが、おかげでオオアカゲラなど鳥類の撮影に成功しました。

画像データを確認したところ、登山道を歩く多くの人達も映りますが、夜になると小動物がウロウロとカメラの前を横切ります。夜間の赤外線カメラの映像を見ていると、時には夜明け後のカラー映像でキツネやアナグマ、ニホンジカも撮影されていました。

前夜に確認したこれらの写真や動画はアジア航測（株）環境・エネルギー技術部 再生可能エネルギーPJ 課の茶山さんがタブレットにダウンロードしていただき、活動当日に撮影箇所では映像を確認しました。古沼の柵の上を何度も歩くテン、カメラ目線のニホンジカ、オオアカゲラに突かれた樹木など、どうしてその場所にとどまったのか、どうして毎回同じルートを歩くのかなど、子どもたちも野生動物の気持ちになって考えていました。



写真 12 多くの小動物が往来(No.1)



写真 13 テンが歩いた柵をチェック(No.2)

茶山さん後藤さんにはカメラを持ち帰ってからもお世話になりました。本当にありがとうございました。

参加者全員で樹木の名板を回収し、「フィールドサイン」も探しながら無事到大峰沼までたどり着きました。

心地よい汗を流し、とても満足な活動ができました。活動後は、それぞれ近くの温泉でゆったりしたり、美味しい名物を食べたり、別の山を散策しに行ったりしてから帰られました。



写真 14 大峰沼の辺で全員集合

今後も、アジア航測（株）は、NPO 法人 とのパートナーシップを含めた企業市民としての活動を推進してまいります。みなさんお疲れ様でした。